

沖縄観光の成長

沖縄市立美里中学校 3年生

坂田 朱裳

今年の五月、「USJ 沖縄進出を断念」とのニュースが飛び込んできました。沖縄にジェットコースターが出来る、人気のキャラクター達に会える、年間パスポートを買って何度も遊びに行こうと、胸に期待を膨らませていた県民は多かったことでしょう。私もその一人で、ニュースを聞いた時はショックでした。

落胆していた私に母が言いました。

「よく考えてごらん、建設にあたって豊かな自然が壊され、きれいな海が汚れていくかもしれないよ。道路も渋滞になるだろうし、予定地周辺に先祖のお墓があるから、シーミーも行きづらくなる。県民の生活も大事。だからプラスばかり考えないでマイナスの面があることも考えていかないといけないんだよ。」

二〇一五年沖縄の観光客数は過去最高を超え、七九三万人以上を記録しました。ドラッグストアや、ディスカウントショップにはアジア系の外国人観光客が多くあふれているほか、車で走行していても同じ車種のレンタカーには「外国人が乗っています」のプレートが貼られているのをよく見かけます。観光地だけでなく大型ショッピングモールやスーパー、回転ずし店などでも国内外を問わず多くの観光客でにぎわっている事が多くなっているのです。

沖縄にとって観光客が増えることは大変喜ばしい事ですが、その一方では様々な問題点も増えているのが実状です。最近では「外国語対応」「案内表記」「両替の利便性」「インターネット関連」「外国人のマナー」などの問題がよく新聞やテレビなどで取り上げられています。その中でも私が注目したのは外国人のマナーについてです。ショッピングモールで試着した服を、試着室に山積みしたり、レジ前の列に割り込んで入ってきたりします。レンタカーからのタバコのポイ捨ても目撃しました。

姉が香港に行った時、一番おどろいたことは、街のあちらこちらにタバコのポイ捨てがあり、汚なかったことだそうです。百万ドルの夜景が美しいと言われている香港ですが、夜はきれいでも、昼間の街並みは残念だったと言っていました。

去年の秋、私は家族で京都に行きました。お寺や神社が多く、古い街並みが伝統を感じさせ、とてもきれいでした。観光地の綿市場へ行った時、観光客が多く、道幅は狭かったのですが食べ歩きを楽しみました。漬け物屋さんで試食をしていると背後から、片手にビールを持ち、飲み歩きしているおじさんがきました。その人が試食の漬け物に手を出そうとすると店の方が「酒もって歩き回らんといて、あなたに試食してもらおうとは思われへん、京都の街を汚がさんといてなあ。」

と注意し、伝統ある京都を守り愛しているんだなと感動しました。他の店でも串に刺さったイカを注文すると、「歩きながら食べんといてよ。店の横で食べてえな。他の人に串が刺さったらあかんわ。」と言われました。商店街の方々が観光客にマナーを教え、自分達の街を良くしている事によって、京都をより良い観光地にしているんだと思いました。

私は沖縄をおとずれる外国人観光客へ、もっとマナーについて教えていくべきだと考えます。例えば飛行機や船の中でマナーについての映像を流し、外国人観光客が多いショッピングモールやスーパー、観光地にはマナーについて分かりやすいポスター等を貼ったり、店員の外国人対応に向けての教育を向上させていったりする事で、質の高い沖縄観光を提供していけるのではないのでしょうか。又、私達県民も観光客に対し、マナーを伝えていく努力をしていけば自分達の生活もより豊かで安全なものになっていく事でしょう。USJ 建設といういきなり大きな事業に取りかかることを考える前に、まずは環境を整えることが必要であるのだと私は思います。調和を保ち、心ふれあえる沖縄観光が世界に誇れる観光地へと成長していくことを願っています。